

文学部A方式 I 日程・経営学部A方式 I 日程・人間環境学部A方式  
GIS（グローバル教養学部）A方式

### 3 限 選 択 科 目 （60 分）

#### 〈注意事項〉

1. 問題冊子・解答用紙では試験科目名を以下のとおり表記している。

| 科目名            | 表記    | ページ   | 科目名         | 表記  | ページ   |
|----------------|-------|-------|-------------|-----|-------|
| 公共, 政治・経済      | 政治・経済 | 2～29  | 歴史総合, 日本史探究 | 日本史 | 30～44 |
| 歴史総合, 世界史探究    | 世界史   | 46～60 | 地理総合, 地理探究  | 地理  | 62～70 |
| 数学Ⅰ・Ⅱ, 数学A・B・C | 数 学   | 72～77 |             |     |       |

2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。  
 3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。  
 4. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。  
 一度選択した科目の変更は一切認めない。  
 5. **数学**については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。  
 6. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

#### マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆, ボールペン, シャープペンシルなどを使用しないこと)。

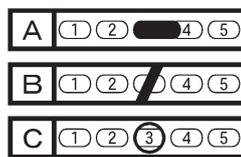
#### 記入上の注意

1. 記入例 解答を**3**にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。  
 3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。  
 4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

7. 問題冊子のページを切り離さないこと。

# (日 本 史)

〔 I 〕 次の文章を読み、後の問いに答えよ

701年に律・令ともにそろった大<sup>a</sup>宝律令が完成し、律令国家の体裁が整った。その編纂総裁と目されたのは  , 副総裁と目されたのは  であった。 は  の皇子で、かつて古代における皇位継承の次第を中心に記録したという『』の記定にも従事している。一方、 は単なる名誉職的立場にあったわけではなく、自ら律令撰定の実務に従事し、条文解釈の治定にも関わっているが、やがて大宝律令の用字その他の点で若干の不備があることを考慮し、あるいはその孫の首皇子(のち  )の即位に備えるためにその刪定を企図して、新たに養<sup>b</sup>老律令を撰定したともいわれている。修正の内容としては、主に母法である唐の律令に依拠しながら、字句をより適正なものに改訂するという微細なものが数百カ所に及んでいる。ただし財産相続法など基本的な部分での変更もないわけではない。それが施行されたのは757年のことで、当時政界の実権を握っていた  が、反対派を圧倒する方策として、 の勅という形で半ば強引に施行したともいう。

大宝律令の施行以後、律令の条文を補足・改正するための格や、業務の施行細則を定めた式が、おりにふれて多数出されていたが、やがて実務の便をはかるために、これらを分類整理した  ・  ・  (成立年代順)の三代格式が成立した。また主に国司の交替について規定した交替式や、『令義解』も編纂された。これらは法治国家としての体裁を、より整えるという意味をもっていたとも考えられる。後には、『令義解』を含む様々な令の注釈書を集成した『令集解』も編纂されている。『令集解』には大宝令の注釈書である「古記」が含まれているが、このことは、養老令が大宝令と大差なかったことの証拠でもある。

問1 下線部 a の大宝律令施行時の天皇の名を、後の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問2 空欄 

|   |
|---|
| A |
|---|

 ~ 

|   |
|---|
| J |
|---|

 にあてはまる適切な語句を、後の語群からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問3 下線部 b の養老律令撰定の時点については、当時の公的史料(『続日本紀』『本朝法家文書目録』など)は、いずれも「養老二年」(718)としている。この時点での天皇の名を後の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- |         |          |        |
|---------|----------|--------|
| ア 天智天皇  | イ 天武天皇   | ウ 文武天皇 |
| エ 元明天皇  | オ 元正天皇   | カ 聖武天皇 |
| キ 孝謙天皇  | ク 刑部親王   | ケ 舍人親王 |
| コ 高市皇子  | サ 草壁皇子   | シ 藤原鎌足 |
| ス 藤原不比等 | セ 藤原武智麻呂 | ソ 藤原房前 |
| タ 藤原仲麻呂 | チ 古事記    | ツ 日本書紀 |
| テ 帝紀    | ト 風土記    | ナ 天平   |
| ニ 和銅    | ヌ 延喜     | ネ 弘仁   |
| ノ 貞観    | ハ 延久     |        |

問4 下線部 c の『令義解』について、60字以内で説明せよ。なお歴史的事項については、漢字で答えること。また句読点は1字分とし、西暦などの算用数字は2桁を1字分として記入せよ。

下書き用(横書き, 20字×3行=60字)→

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

## 日本史

〔Ⅱ〕 次の史料1～5を読み、後の問いに答えよ。なお、一部原文の表記を改めたところがある。

### 史料1

新院と申すは御兄、内裏と申すは御弟なり。関白殿は御兄、左大臣殿はまた御弟なり。内裏の大將軍には下野守義朝、安芸守清盛、院方の大將軍には義朝が父六条判官為義、清盛が伯父平右馬助忠正。上と<sup>a</sup>いい下と<sup>b</sup>いい、何れ勝劣あるべしとも思えず。ただし、合戦の慣い、必ず一方は勝ち、一方は負く。

(  物語)

### 史料2

大方泰時<sup>c</sup>心ただしく政すなおにして、人をはぐくみ物にをごらず。  の御事をおもくし、本所のわづらいをとどめしかば、風の前に塵なくして、天の下すなわちしづまりき。(中略)  いかなる果報にか、はからざる家業をはじめて、兵馬の権をとれりし。(中略)中二とせばかりぞありし、みまかりしかど、かの泰時相續ぎて徳政をさきとし、法式をかたくす。

(神皇正統記)

### 史料3

関東御事書の法

一、質券売買地の事  五年三月六日

右、  ・御家人の買得地においては、本条を守り、  箇年を過ぐるは、本主取り返すに及ばず。非御家人ならびに  の輩の買得地に至りては、年記の遠近をいわず、本主これを取り返すべし。

(東寺百合文書)

## 史料4

御後の障子引きあけて武士数輩出て、則ち公方<sup>d</sup>を討ち申す。(中略)管領<sup>e</sup>、細川讃州、一色五郎、赤松伊豆等は逃走す。その外の人々は右往左往して逃散す。御前において腹切る人なし。赤松落ち行くに、追い懸けて討つ人なし。未練いうばかりなし。諸大名も同心か。その意を得ざる事なり。所詮、赤松討たるべきの御企て露顕の間、さえぎりて討ち申すと云々。自業自得、果して無力の事か。將軍かくの如く犬死にするは、古来その例を聞かざる事なり。

(看聞日記)

## 史料5

今日、山城国人集会す。上は  歳、下は十五、六歳と云々。同じく一國中の土民等群集す。今度兩陣の時宜、申し定めるための故と云々。然るべきか。ただし又、下極上の至りなり。兩陣の返事、問答の様如何。未だ聞かず。(中略)自今以後においては両  方は国中に入るべからず。本所領共はおのおの本の如くたるべし。新関等一切これを立つべからずと云々。珍重の事なり。

(大乘院寺社雑事記)

問1 下線部 a が指す人物として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

ア 白河上皇      イ 後白河上皇      ウ 鳥羽上皇      エ 崇徳上皇

## 日本史

問2 下線部bの人物に関して述べた文として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

ア 清盛の父である宗盛は、瀬戸内海の子平定などで鳥羽上皇の信任を得た。

イ 源義家が出雲国で反乱をおこすと、清盛の祖父である正盛は追討に向かった。

ウ 後白河上皇の信任を得た清盛は、法住寺御所の近くに蓮華王院を造営した。

エ 清盛は妹の徳子を高倉天皇の中宮に入れ、その子の安徳天皇を即位させた。

問3 下線部cの人物について述べた文として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

ア 承久の乱後、三浦泰村一族を滅ぼして、北条氏の地位を不動のものとした。

イ 承久の乱後、執権を補佐する連署を新たにおき、叔父の北条時房を任命した。

ウ 評定衆の会議である評定のもとに、新たに引付をおいて引付衆を任命した。

エ 困窮する御家人を救う対策として、御家人の所領の質入れや売買を禁止した。

問4 下線部dが指す人物として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

ア 足利義昭      イ 足利義満      ウ 足利義教      エ 足利持氏

問5 下線部eが指す人物として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

ア 細川持之      イ 細川勝元      ウ 山名持豊      エ 山名氏清

問6 空欄   に入る語句の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しい組み合わせがない場合は、オをマークせよ。

- ア A - 保元 D - 貞永                      イ A - 平治 D - 貞永  
ウ A - 保元 D - 永仁                      エ A - 平治 D - 永仁

問7 空欄   に入る語句の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しい組み合わせがない場合は、オをマークせよ。

- ア B - 武家 C - 時政                      イ B - 公家 C - 時政  
ウ B - 武家 C - 義時                      エ B - 公家 C - 義時

問8 空欄   に入る語句の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しい組み合わせがない場合は、オをマークせよ。

- ア E - 守護 G - 侍                      イ E - 地頭 G - 侍  
ウ E - 守護 G - 凡下                      エ E - 地頭 G - 凡下

問9 空欄   に入る数字の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しい組み合わせがない場合は、オをマークせよ。

- ア F - 廿 H - 五十                      イ F - 廿一 H - 五十  
ウ F - 廿 H - 六十                      エ F - 廿一 H - 六十

問10 空欄  に入る正しい語句を、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合は、オをマークせよ。

- ア 山名                      イ 畠山                      ウ 細川                      エ 一色

## 日本史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

近世になると、さまざまな産物の生産が盛んになった。農業では、百姓たちが米・雑穀のほかに商品作物を作り、貨幣を得る機会を増やそうとした。また農産物を原料とする加工業も発展した。醸造では、灘の酒、野田の醤油が江戸などの需要を満たした。織物では、西陣織や桐生絹が名産となった。

林産物については、城下町の建設資材として材木が重視された。このため優良な山林は、幕府や諸藩において直轄支配とされることがあった。たとえばは、尾張藩の直轄山林から伐り出され、良質な材木として有名である。

鉱山業では、朝鮮から伝えられた精錬技術などに支えられ、各地で鉱山の開発が進められた。17世紀後半になると、金銀の産出は縮小したが、反対に銅の産出は拡大した。近世の主要な鉱山としては、生野銀山、別子銅山などをあげることができる。また、たたら製鉄によって良質な鋼もつくられ、刀剣などの材料となった。

水産物については、製塩業の展開が注目される。塩は食材であるとともに、魚を遠隔地まで運ぶための保存措置においても重要であった。漁業では先進地である摂津・和泉・紀伊などの上方漁民により、さまざまな網を用いた網漁法が各地で普及した。とくに鰯は、地曳網漁により大量に漁獲された。17世紀末以降、清向けの輸出品として、や昆布の需要が拡大すると、蝦夷地や陸奥で漁業が活発になった。

問1 下線部 a に関して、その説明として誤っているものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 綿花の産地としては河内国が有名である。
- イ 漆の産地としては陸奥国会津が有名である。
- ウ 紅花の産地としては阿波国が有名である。
- エ 茶の産地としては山城国宇治が有名である。

問2 空欄   には国名が入る。その組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア A - 山城国 B - 播磨国                      イ A - 山城国 B - 下総国  
 ウ A - 摂津国 B - 播磨国                      エ A - 摂津国 B - 下総国

問3 下線部 b に関して述べた文 X・Y について、その正誤の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- X 京都で生産された綿織物である。  
 Y 高度な技術を要する金襴が高機を用いて生産された。

- ア X - 正      Y - 正                                      イ X - 正      Y - 誤  
 ウ X - 誤      Y - 正                                      エ X - 誤      Y - 誤

問4 下線部 c に関連して、城下町としての江戸の説明として**誤っているもの**を、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 城郭を中心にして、武家地、寺社地、町人地などから構成された。  
 イ 町人地には、名主などを中心に運営された町という共同体があった。  
 ウ 町内には家持の町人や、店借、奉公人など、多様な階層が存在した。  
 エ 明暦の大火からの復興過程では、広小路が廃止され、市域が拡大した。

問5 下線部 d に関連して、将軍と大名についての説明として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 将軍と主従関係を結び、1万石以上の領地を与えられた武士を大名という。  
 イ 外様は尾張・紀伊・水戸の三家をはじめとした、徳川氏一門の大名をいう。  
 ウ 親藩は関ヶ原の戦い前後に徳川氏に臣従した大名をいう。  
 エ 幕府は外様を要所に配置し、親藩や譜代を可能な限り遠隔地に配置した。

## 日本史

問6 空欄  に入る語句として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 尾鷲檜            イ 木曾檜            ウ 吉野杉            エ 熊野杉

問7 下線部 e に関連して、慶長年間(1596～1615)に朝鮮との間で己酉約条を結んだ大名として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 島津氏            イ 宗氏            ウ 細川氏            エ 黒田氏

問8 空欄   には国名が入る。その組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア D - 但馬国    E - 下野国            イ D - 但馬国    E - 伊予国  
ウ D - 石見国    E - 下野国            エ D - 石見国    E - 伊予国

問9 下線部 f に関して述べた文 X・Y について、その正誤の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

X 砂鉄を原料とする。

Y 中国地方や東北地方を中心におこなわれた。

ア X - 正    Y - 正                            イ X - 正    Y - 誤  
ウ X - 誤    Y - 正                            エ X - 誤    Y - 誤



## 日本史

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

幕末の開港から約170年、さまざまな外国人が日本をおとずれ、数えきれないほどの訪問記や滞在記録がしるされた。日本が場面として登場する小説、映画まで含めれば、枚挙にいとまがない。そうしたなかから、今回いくつか紹介してみよう。

ジュール・ヴェルヌ『八十日間世界一周』には、主人公たちが、横浜に立ち寄る場面が登場する。横浜は海外航路の拠点、外国貿易の中心地であった。横浜訪問は、作中では1872年11月の出来事とされ、<sup>a</sup>居留地の様子や日本人の風俗などが描かれている。ヴェルヌ自身は日本をおとずれたことはないが、<sup>b</sup>スエズ運河の開通や、<sup>c</sup>米国における大陸横断鉄道の開通といった、この時期の交通の著しい発達に触発され、作品を執筆したとされる。

明治期に日本をおとずれた外国人のなかには、<sup>d</sup>お雇い外国人と呼ばれる人々もいた。その一人ドイツ人医師ベルツは、東京医学校などで教鞭をとりながら、近代化路線をひた走る日本の変化を目撃し、その印象を克明に記録した。とりわけ有名なのが、大日本帝国憲法発布の際、お祭り騒ぎの市中や人びとの喧騒を活写した場面<sup>e</sup>であろう。「到るところ、奉祝門、<sup>イルミネーション</sup>照明、行列の計画。だが、こっけいなことには、誰も憲法の内容をご存じないのだ。」

1890年来日したラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、英語教師をつとめる一方、日本の印象を記事にして欧米の新聞等に発表した。たとえば、来日間もない日本の印象を「まるでなにもかも、小さな妖精の国のようだ。人も物もみんな小さく、風変わりで神秘的である」などと描いている。こうしたハーンの日本イメージは、欧米で大きな評判をよんだ。初期の作品集『知られぬ日本の面影』には、勤務先の鳥根県尋常中学校において教育勅語奉読式が行われた場面が描かれている。ハーンは知事が勅語を読み上げる様子<sup>f</sup>を「それは、あたかも歌声のようだった」と記す(『新編 日本の面影』)。

ハーンの日本観につよく影響された一人に物理学者アルベルト・アインシュタインがいる。アインシュタインの訪日は、1922年11月から12月にかけてである。奇しくも来日の直前には、<sup>g</sup>同人のノーベル賞の受賞が決定している。アインシュ<sup>h</sup>

タインを招聘したのは、山本実彦が創立した出版社である。同社が発行する総合雑誌 A は、社会主義者などが論文を発表していたことで知られる。

アインシュタインは日本滞在中、長岡半太郎をはじめ多くの科学者と交流し、各地で講演を行い、松島・日光・名古屋・京都・奈良・宮島など各地をめぐる。日記には、日本に対する好意的な評価があふれている。京都のホテルからみた光景を「愛くるしくて小柄な人たちが、通りを早足でカタカタ歩いている」と記すあたり、ハーンの影響を感じさせる。

「喜劇王」と呼ばれた映画人チャールズ・チャップリンも、ハーンを描く日本像に魅了された一人である。1932年5月の初訪問では、相撲や歌舞伎を観覧、美術館では浮世絵展を鑑賞し、天ぷらに舌鼓をうつなど、日本の伝統文化を満喫している。犬養毅首相との対面も予定されていたというが、五・一五事件が起きたため、実現しなかった。犯行グループの謀議のなかでは、首相官邸でのチャップリン歓迎会を襲撃しようという話も出ていたというから、事と次第によっては危ないところであった。なおチャップリンは、6月2日には、首相官邸をおとずれ、斎藤実新首相と会見している。

チャップリンが最後に日本を訪問したのは、1961年のことである。当時かれは「赤狩り旋風」(マッカーシズム)の影響により事実上、米国を追放されていただけに、<sup>j</sup> 搭乗する飛行機が給油のためアラスカに立ち寄ったときには、身柄が拘束されるのではないかと怯えたという。ともかく、久しぶりの訪日であったが、<sup>k</sup> 高度経済成長真っ只中の日本の変貌ぶりは、伝統文化をこよなく愛するチャップリンを大いに失望させたといわれる。最後の訪日後に出版された自叙伝では、日本訪問にも触れており、そこでは「日本がいつまで西欧文明のビールスに感染しないでいられるかは問題だ。固有の文化に特徴づけられた生活の中の、いくつかの単純、素朴な瞬間——月見、花見、茶席の瞑想など——に対する日本人の好みも、やがては西歐的企業のスモッグにおかされて、失われてゆくことは必定であろう」と綴っている。

チャップリンが日本を離れてからすでに60年以上が経過し、2023年の訪日外国人は約2507万人、2019年には過去最多の約3188万人にのぼったという。変貌していく日本の姿は、これからおとずれる外国人にどんな印象をあたえていくのだろうか。

## 日本史

### <参考>

トク・ベルツ編，菅沼竜太郎訳『ベルツの日記』上(岩波文庫，1979年)

ラフカディオ・ハーン著，池田雅之訳『新編 日本の面影』(角川文庫，2000年)

アルバート・アインシュタイン著，セエブ・ローゼンクランツ編，畔上司訳『アインシュタインの旅行日記 日本・パレスチナ・スペイン』(草思社，2019年)

チャールズ・チャップリン著，中野好夫訳『チャップリン自伝』(新潮社，1966年)

千葉伸夫『チャップリンが日本を走った』(青蛙房，1992年)

大野裕之『チャップリン暗殺 5.15事件で誰よりも狙われた男』(メディアファクトリー，2007年)

問1 下線部 a に関連して，貿易金融を目的として1880年に設立された銀行の名称を，次のア～エのなかから一つ選び，その記号を解答欄にマークせよ。

ア 国際協力銀行

イ 日本興業銀行

ウ 日本勧業銀行

エ 横浜正金銀行

問2 下線部 b に関連して，居留地の説明として正しいものを，次のア～エのなかから一つ選び，その記号を解答欄にマークせよ。

ア 兵庫の開港延期の見返りに，神戸に居留地が設けられた。

イ 東京では築地に居留地が設けられた。

ウ 最初の居留地は下田に設けられた。

エ 居留地での貿易を勘合貿易と呼んだ。

問3 下線部 c に関連して，スエズ運河の開通と同じ年の出来事として正しいものを，次のア～エのなかから一つ選び，その記号を解答欄にマークせよ。

ア 薩英戦争

イ 大浦天主堂の完成

ウ 開拓使の設置

エ 富岡製糸場の設立

問4 下線部 d に関連して、お雇い外国人(外国人教師)と業績の組み合わせとして誤っているものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |             |            |
|-------------|------------|
| ア フェノロサー動物学 | イ ミルンー地震学  |
| ウ ボアソナードー法学 | エ ナウマンー地質学 |

問5 下線部 e に関連して、1889年、大日本帝国憲法と共に制定された法令の名称として正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |       |      |      |        |
|-------|------|------|--------|
| ア 国会法 | イ 民法 | ウ 刑法 | エ 皇室典範 |
|-------|------|------|--------|

問6 下線部 f に関連して、教育勅語にかかわる説明として誤っているものを、次のア～ウのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合は、エをマークせよ。

- ア 福沢諭吉が原案の起草にたずさわった。
- イ 学校教育の基本として忠君愛国が強調された。
- ウ 1948年、国会決議により失効した。
- エ

問7 下線部 g に関連して、1922年の出来事として誤っているものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ア シベリアからの撤兵 | イ 日本農民組合の結成 |
| ウ 築地小劇場の開場  | エ 九カ国条約の締結  |

問8 下線部 h に関連して、日本のノーベル賞受賞者と受賞部門の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| ア 湯川秀樹(化学)      | イ 朝永振一郎(物理学) |
| ウ 江崎玲於奈(医学=生理学) | エ 大江健三郎(平和)  |

## 日本史

問9 下線部 i に関連して、犬養毅内閣にかかわる説明として**誤っているもの**を、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 高橋是清を大蔵大臣に起用した。
- イ 金輸出再禁止を断行した。
- ウ 立憲政友会を与党とした。
- エ リットン調査団の派遣に反対した。

問10 下線部 j に関連して、「赤狩り旋風」はアメリカの出来事だが、日本でも1950年、レッド＝パージが始まった。レッド＝パージにかかわる説明として**誤っているもの**を、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア GHQの指令で共産党中央委員24名が公職から追放された。
- イ 追放対象は、報道機関、民間企業、官公庁など広範な共産主義者に及んだ。
- ウ レッド＝パージを受けて、公職追放の解除は停止された。
- エ ときの内閣は第3次吉田茂内閣であった。

問11 下線部 k に関連して、日本の高度経済成長にかかわる説明として**誤っているもの**を、次のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1968年には、アメリカ・中国につぐ世界第三位の国民総生産(GNP)を実現した。
- イ 1961年より1970年の間は、年平均10%をこえる経済成長をとげた。
- ウ 石炭から石油へのエネルギーの転換が急速に進んだ。
- エ 終身雇用・年功賃金・労使協調を特徴とする日本的経営が確立した。

問12 空欄 

|   |
|---|
| A |
|---|

 に入る総合雑誌の名称を漢字で解答欄に記せ。

(白 紙)